

福岡教区2019年の目標 「信じる喜びから伝える喜びへ」

復活への希望を抱いて



主任司祭 遠山満

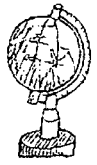
平成の終わり頃、皇室に関する多くの番組がテレビで放映されました。その中で、私にとって印象的だったのは、現上皇后美智子様が、幼少期の頃、慣れ親しんだ新見南吉の童話『でんでんむしのかなしみ』の内容でした。そのあらすじは、大まかには次の通りです。ある日、でんでん虫が「自分の殻の中には『悲しみ』しか詰まっていない」ことに気づき、「もう生きていけない」と嘆きます。そこで別のでんでん虫にその話をするのですが、そのでんでんむしも、「私の殻も悲しみしか詰まっていない」と言います。また別のでんでん虫も同じ事を言うのです。そして最初のでんでん虫は「悲しみは誰でも持っている。自分の悲しみは自分で堪えていくしかない」と嘆くのをやめた、というものです。この童話が、現上皇后を長い間、精神的に支えてきたようです。

私は、この童話の内容を聞いて、ある仏典の話思い出しました。一人の女性が、自分の幼子を亡くします。彼女は、子供の死を受け入れることができず、仏陀に、その子を生き返らせてくれるように頼みます。仏陀は、その願いを聞き入れますのですが、その為には、何処かの家から、辛子種を一握り貰ってくる必要がある事、しかも、まだ死人を出した事のない家から、貰ってくる必要がある事を告げます。この女性は、喜び勇んで各家庭を回るのですが、どの家を訪ねても、死者を出した事のない家庭などありません。どの家でも、祖父母や親、伴侶や子供が亡くなっていました。各家庭を巡るうちに、死が、誰にでも訪れる現実である事を知るようになり、この女性は悲しみを乗り越えるというものです。

聖書の中には、この仏典と似てはいますが、異なる内容の物語が書かれています。ナインと言う町で、自分の息子を亡くして悲しんでいた母親の為に、イエス様は、その息子を蘇らせて下さいました(ルカ7章)。また、会堂長であったヤイロの娘を蘇らせて、親の目の涙を拭って下さった話は、三つの福音書に記されています。さらに、ヨハネ福音書の中には、イエス様の友人であったラザロを、イエス様が蘇らせて下さる話が記されています。イエス様は、これらの人の魅力、私達も将来、その恵みに与る事になる、終わりの日の復活のしるしとして示されました。「将来皆さんも皆、復活します。死は、永遠の別れではありません。将来、皆さんの目の涙は、拭われます」。その事を私達に知らせる為に、イエス様は死者を蘇らせ、ご自分自身も復活されました。

この世の生活には、沢山の悲しみがありますが、その目の涙を、神様は将来、完全に拭って下さるのです。悲しい現実があっても、将来の復活に希望を置いて、喜びの内に共に歩いていく事が出来ますように。





『私の先祖 私を創ってくれた人のルーツを語る』

その10

匿名希望

昭和20年8月9日、私の父は長兄とともに勤労奉仕の作業を休み、自宅で寝転んで本を読んでいた。午前11時頃、暑いなあ、腹減ったなあとぼんやり思っていたとき、突然それまで見たことがない強烈な閃光が視界を襲った。次の瞬間激しい突風が吹き、父の体は風に煽られ部屋の壁に叩きつけられた。痛みでしばらく動けなかったが、体を起こそうとした直後、頭の上を無数の木片やガラス片が飛んできて、ひゅんひゅんと音をたてて壁に突き刺さった。とっさに体を伏せ、突風が静まるのを待った。

何が起きたのかわからないが、何かとんでもないことが起きたことはわかった。自宅は突風で半壊したが、稲佐山の尾根に守られてそれ以上の被害はなかった。

周辺の状況を知りたくて、昼過ぎに父と長兄は稲佐山に登った。中腹まで来たとき、振り返って街を見た。見慣れた建物の姿はなく、ただ一面瓦礫と化し、あちこちから火の手が上がり始めていた。ことばも出ず呆然と立ちすくんでいたが、突然兄が駆け足で山を降り始めた。父も慌ててその後を追ったが、兄は自宅ではなく北へ、大橋工場の方向に向かって走り出した。父は必死になって兄を止めた。「兄貴、あっちはいかん！大橋の工場あたりは火が出て燃えよる。今は行ったらいかん！」それでも行こうとする兄をなんとか止め、引きずるようにして家に帰った。

翌朝早く、父と長兄は大橋工場に向かった。兄はいつも自分と共に工場で作業をしていた友人の安否が気になっていた。大橋工場は曲線になった建物の鉄筋だけが残っていた。二人で懸命に友人を探したが、性別もわからない黒焦げの遺体だらけだった。そのとき、聞きなれた祈りのことばが父の耳に入ってきた。声の方を見ると数人の女子学生が円陣を組み、中心には仰向けに寝かされた、焼けただれた人の姿があった。祈っている生徒達も全身にひどい火傷を負っていたが、制服を見て純心女学校の生徒達だとわかった。そして彼女達は祈っていた。「我らの罪を許したまえ」

その祈りを聞いた瞬間、父の中で何かが音をたてて切れた。当時は臨終の前に司祭からの秘蹟を受けなければ、天国には行けないと教えられていた。「我らの罪を許したまえ」—我らの罪とは何だ。こんな目に遭うほどの罪を我らが犯したか。自分たちは親達に教えられたとおり、毎日決められた祈りを唱え教会に通い信仰を守ってきた。先祖達も厳しい迫害に耐えながら、信仰を守り続けたと聞いた。それなのに、なぜこんなことが起きるのだ。しかもあの女学生達は、こんな残酷な死の間際に遭いながら、一人の司祭も立ち会うことなく、それでも神の国に迎え入れられたいと自分達で祈っている。それほどのことをしなければ受け入れてくれないような神など、そんな神など、自分は要らない！

父はその場を振り切るように走り出した。涙がとめどなく溢れ出て視界を遮った。 【次月に続く】

# ✠ご復活祭 4.21

## ご復活徹夜祭 4.20

私は父と子と聖霊の御名によってあなたに洗礼を授けます

受洗、受堅、初聖体おめでとうございます！  
マリア甲斐晶子（かいあきこ）さん



光の子として歩みなさい



初聖体



♪ 王なる主 我が神よ  
命なる主 我が神よ  
主の愛を知らず 生きてきた私に  
主は 手を差しのべられた  
全能の 我が神よ 救い主 主イエスよ  
主は私に命を与えられた  
私の全ての罪清められた主よ  
計り知れない 主の愛で満ち溢れる  
主よ我が霊は ただあなただけ  
愛します 主イエスよ  
(賛美のCDより)

やっと洗礼を受けることができ感謝の気持ちでいっぱいです。2015年に初めてこの教会に来ました。家族のように暖かく迎え入れてくださり、そして今家族ができたような感じでとても嬉しいです。ありがとうございます。感謝しています。マリア甲斐晶子

## ご復活祭 祝賀会 4.21

ご復活おめでとうございます！ かんぱーい！



西田神学生  
好きな飲み物は？  
キリストの御血！？



甲斐晶子さん  
6月にはフロリダ  
に帰ります…



笹丘ファミリー合唱団 歌で祝福 ♪ごらんよ空の鳥～

# 十初聖体式 4.28

— 神のいつくしみの主日 —



「 イエスの御心から  
慈しみの泉として私達の為に  
ほとばしり出た血と水よ  
私はあなたに信頼します 」  
(3時の祈り)



初聖体

「初聖体をいただいて  
どんな気持ちがしまし  
たか? =



ミカエル  
おけだひろと  
桶田大翔

マキシミリアノ  
マリア・コルベ  
さいかける  
斉翔

マリア  
ふじはらここみ  
藤原心海

ドンボスコ  
なかはらりんか  
中原琳果

ペトロ  
みぞぐちこうた  
溝口航太

おいしかった  
みぞこうた

とってもおいしい  
中原琳果

ごはんのあじがしました  
やっもらえました 大翔

おいしかったです。  
さいかける

人がいっぱいいて  
はずかしかったです。  
ぱんはふつうでした。  
ふじはらここみ



病者への祈りが僕たち、私  
をとおして聞き入れられます



初聖体おめでとう! 家族と記念撮影

## 編集後記

思いがけず、洗足式で足を洗ってもらメンバーの一人に選ばれた。このようなお恵みがいただけるとは…! 足に流された聖水がとても心地よく、すべての罪を許していただいたような何とも言えない、神秘的な気分と表現すればよいのだろうか…? そういう気分になった。つい今しがたまで心にもやもやとしていたものが、ドライアイスに水をかけて気化するように流れ去った。感謝、感謝。そして今、新たな力が湧いてきた。なんとすばらしいのでしょう! 神に感謝。(J.N)